

## 月のみたて

月の模様は、昔からいろいろな姿にみだてられ、その土地土地で様々な伝承を生んできました。

日本で一番ポピュラーなのは「うさぎの餅つき」(A)で、昔からの刷り込みをうけてきたおかげで、月をうさぎ以外の姿にみだてるのには少し頭の切り替えが必要になってしまいました。

海外では、カニの姿(B)に見えるとか、ワニとか、耳の長いウサギとか、ロバとか、動物にみだてられる例が多いほか、本を読む女性(C)や女性の横顔(D)というみだてもあります。

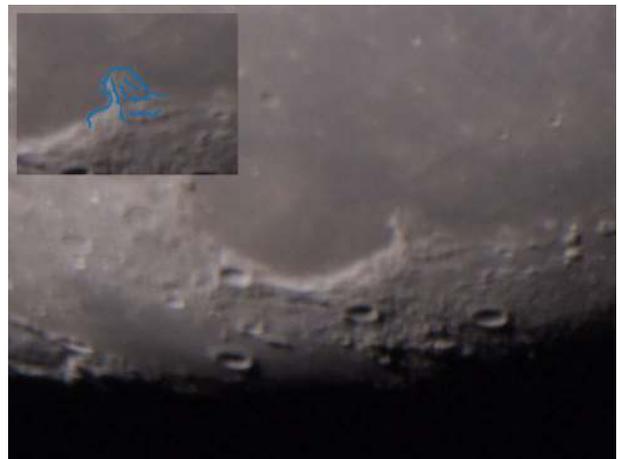
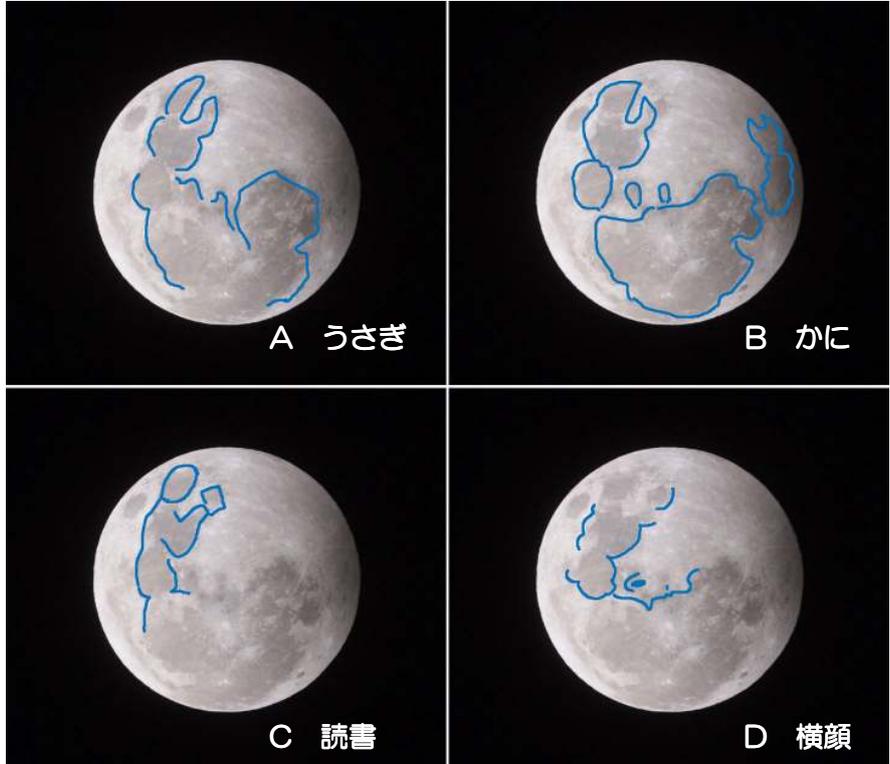
月というと、女神(セレーネ或いはアルテミス、ルナなど)と結びついていることから、月に女性の姿をみだてるもの自然ななりゆきなのかもしれません。

さて、2010年9月号のSky&Telescope誌を見ていたら、フランスの天文学者ジョバンニ・カッシーニ(惑星の観測で有名な天文学者で、土星の輪の隙間(カッシーニの間隙)などに名を残しています。)が1679年に発表した月面図に女性の姿が描きこまれているという記事が掲載されていました。その月面図は直径約53cmのかなり細密なもので、レリーフのようにクレーターが浮き出るように描かれたリアルなものです。

その図の中には、女性以外にもハートの形など、その女性へ宛てたメッセージとも受け取れる意図が込められているのではないかと思います。

具体的には、ティコから伸びる光条をキューピットの矢にみだて、晴れの海の内周にその矢に射抜かれたハートが、また雨の海にもコペルニクスから伸びる光条の中にトンボの羽のようなハートが描かれています。

そして女性の姿は、虹の入江の西側(右の写真では入江の右端)に髪をなびかせた横顔として描



女性の横顔(左上は図示によるガイド)

かれています。(某ヘアケア製品の会社(W社)のトレードマークみたいですね。)

因みに、その女性が誰のことなのかは、よくわかっていないということですが、多分、彼の奥方ではないかということでした。

見頃は、月齢11くらいで、アリストアルコスが夜明けを迎える頃が良いようです。

## メカが大好き 全天カメラ

天の川とオーロラを撮るために、全天周(180°)が撮影できるカメラを作って使用しています。もともと、ロシア製の安価な35mmカメラ用対角魚眼レンズをマミヤの6×7ホルダーに接続し、全天を撮影するカメラを自作して使っていました。

しかしながら、シャッターがないとレンズ前面のフタを開閉して露出する必要があり、撮影効率がかばかしくありません。ということで、魚眼レンズのリア部分(ペンタックスマウント)を分解してコパルの0番シャッターを接続し、普通にカメラとして使用できるようにしたのが右図のカメラです。ファインダーは(ここには写っていませんが)ドアスコープを活用したものを自作していますが、所詮真上を向けて使用するのであまり意味がありません。

ここまで作りこむと、実は昼間の風景に対しても結構面白く使えると思うのですが、なかなかこれが、被写体を考えるのが難しく未だに撮影をしたことがありません。せっかくの特殊なカメラなので、楽しい使い道はないものかなあ。



## Books&CDs 宙のまにまに／柏原麻美

柏原麻美氏による高校の天文部を舞台にしたコミックスであります。昨年の7月から9月にかけてテレビアニメとして放映されましたね。7月に第8巻が発売されて、現在も継続中です。

天文部を舞台にしたコミックスといえば、古くは日渡早紀の「星はすばる」とか、ちよくちよくありますが、あくまで舞台上の設定であって、宙のまにまにのほうはその活動をストーリーに織り込んだ、いわゆる直球勝負になっています。

星屋の眼からすれば、「うんうんそのとおり」とか「これはちょっと違うんでないかい」とか、突込みどころも満載なので、別の楽しみもあります。

テレビアニメのほうは、第5巻の途中までが描かれていましたが、その後が気になる方はこのコミックスでどうぞ。



## 編集雑記

まだまだ続く猛暑ですが、これだけ暑いと天体観望のほうも収穫ゼロであります。

OTPも危うく落ちるところでしたが、来月の話題の予定としていた、月のみたてを繰り上げて、滑り込みました。

満月は、欠け際が見えにくいので、観望上は面白みに欠けますが、双眼鏡でいろいろなみたてを楽しんでみるのも一興です。表面の満月の写真(実は、1月1日の月食の写真です。)には、絵が書いてあるので、こちらのほうに絵無

しの満月を掲載しておきます。写真の上でみだてに挑戦してみたいかがでしょう。

Kz\_Wada  
／和田一人

